

出句用紙(番号 / )

作者名

桃

坊守も甘茶給仕の春の昼

春天のひと白ひ山の氷飲み場

流刺とドラムメジャーが春の街

金柑をあまた実らせ売物件

若草の広場が古代帝都跡

南柯句会

出句用紙 (番号 ~~2~~)

作者名 内田 康子

春山を越えて向<sub>ニ</sub>フの雲とたの<sub>ニ</sub>子

忘れ<sub>テ</sub>ほくなりし友人春日寒<sub>ニ</sub>し

正  
ふ<sub>ツ</sub>くらと向<sub>ニ</sub>と差<sub>ニ</sub>き入<sub>ル</sub>み友母キヤ<sub>ッ</sub>ッ

下  
あ<sub>ノ</sub>人はき<sub>コ</sub>とたんほ<sub>ホ</sub>ほ<sub>ホ</sub>踏<sub>ミ</sub>ま<sub>ノ</sub>人

草焼は長男ほかり葉ま<sub>ノ</sub>りぬ

南柯句会

出句用紙(番号 3)

作者名 関 洋子

○○ <sup>天</sup>	○	○	○○	
桜貝透かしこの世は桜色	おちよぼロウフむきかげん黄水仙	巫女の舞花も病も鎮 <small>しず</small> めんと	そぞろ雨妖精の乗る花 <small>はな</small> 筏 <small>いかだ</small>	若草の香を引き連れて教室へ

南柯句会

出句用紙(番号4)

作者名

鮫島しょうん

◎○○○		○		㊦
託見所の淵へ這 <small>は</small> ひ行く四月かな	若草や胎毛筆の先やはらか	気持ちよくニトロを忘れ春散歩	風止まり土より跳ねて初蝶の	定年だよと握る母の手 花こぶし

出句用紙(番号 ~~5~~ 5)

作者名 しやん

	<p>世に 昔日本の若草の妻でありにけり</p>
〇〇	<p>若草の丘に 若無村の 詩と止なく</p>
	<p>若草や 欧州力士の 妻さ 不たニ</p>
	<p>読経合の 声 書写山の 若草に</p>
①	<p>若草芽 吹く 君死に したふ こと なるれ</p>

南柯句会

4/12 南柯

出句用紙 (番号 6)

作者名 (三不) 道夫

㊦㊦

日向雨 ひなたあめ わか草 わかしん と白ひ立つ

山桜 睡たき山に笑み灯す

○ 黄沙ふり軒の雨下やささ濁り

陽炎に揺られて花 かざり 雷 かみらい ほとけゆく

菜の花の堤ほとけて黄の河原

南柯句会

出句用紙(番号 7)

作者名 友澤一途

	〇	〇〇	〇〇〇	
	胸さゆぐ 車窓を叩く 桜雨	昭和余年 ホームの果てに 花散れり	草若葉娘の良き日待ち 礼服を	過去を断つ シュレッターの音木の芽時
				若草をひたに歩まむ一途かな



出句用紙 (番号 9)

作者名 山下疾風

〇〇	〇	⑤	〇	
春光にコットンの白埋れをり	引き出しの古輪ゴム伸ぶ暮の春	卒業や抜かれて傾ぐ書架の列	若草や山の輪郭ゆるびゆく	コットンをふわり纏ふて水温む

南柯句会

ゆしツトに二三枚のサ落花あり

若草に同じボーズに寝ころがり

春衣合わせる旅を探しあり

散るまいと散らせるまいと桜門

若草を食んで神鹿能勢か参り

出句用紙(番号 11)

作者名 福田光弥

	○		∞	
	月は知る親子三代花盗人	木漏れ日と選んで歩み弥生かな	潮干潟地平に勝と下ろす人	若草や空ま家の庭を風抜ける
クラス替へせゞぐを縫ふ母の指				

南柯句会

出句用紙(番号12)

作者名 上窪泰千

☆

〇

青空にひとかたまりの花吹雪

老木の切株女らの桜女な

お遍路の撞けば清らか鐘の音

校音子のすみれに集う同窓会

若草に小鹿の首がおじぎする

南柯句会

作者名 上田秋霜

○	○	○○○		○
日本海の怒濤ちっほけな春愁	その話長くなりさう桜餅	揚雲雀点の如くに朱雀門	若草の光の中へ竹とんぼ	大和なる高取城の山桜

出句用紙(番号14)

作者名

近藤和吉

若草の頃一次予選の便り

若草の匂ふが如く眩しめり

若草や躲す銀輪二人乗り

花守や一六代目藤右衛門

紙風船五回ついたら妹へ

南柯句会

出句用紙 (番号 15)

作者名

花山

特 (4)

		○	◎	◎◎
<p>草葉吹く 花死んば 南柯句会</p>	<p>昔の時代 義</p>	<p>狼の生きたる 卯月かな</p>	<p>刺春を 浅川マキの 四月尽</p>	<p>スプリングス 欠けたる 鼻や 春の空</p>

草葉吹く 花死んば 南柯句会

ことなれ

出句用紙(番号16)

作者名 藤原 中たか

色褪せそ奈ほ門飾かど子椿かな

枯れ枝に三粒葉芽見ゆ浅みどり

風そよおし晩鐘遠く花の散る

朝日受け透けるみどり葉深呼吸

若草の道手を轆糸くわいと影跳ねる

出句用紙(番号 17)

作者名 真一

	〇〇			
春惜しむ時計の針は戻らない	弓なりに積もる小花や雪柳	春眠や夢の行 <sup>ゆく</sup> えはけせうせう	人群れの京は桜の処 <sup>とが</sup> 口のごと	若草も芽吹く暇なき鹿の園

南柯句会

出句用紙

18

作者名

藤子工

〇〇

兼	〇〇		〇	〇
若草の上でブランチ四姉妹	務の上で新に曲辰を春の雲	草餅を素知らぬ間に二人分	春昼や知らぬ間に落つ老眼鏡	いかなごりてかる釘蒸やまぼろしに

作者名

文蔵

若草わかしらや十尺じゅうしゃく鷓尾じざいのおほき寺

尼寺にじの楠くすのぎの鈍色とんじ濃山吹のうやまぶき

試しされしし壮齡じやうりやうのの膂力りよく春はるのの泥どろ

春はるの湯ゆや融とけて流ながれて夜よの底そこ

ははドルドルバーバーガガーーずずししりり乃はら子こみみ鹿か

〇〇〇

〇

〇〇

出句用紙・作者名・岡本へちま

〇〇 花開く紆余曲折の幹にして

木津川の土手何億のつくしんぼ

玄鳥来白鷺城の空の青

〇 うち寄せる塵芥（じんかい）に浮く落椿

若草やライトアップの足の下

○	春荒れて浦島太郎の半世紀
○	ぬし 主もまた海を渡りし旅の蝶
○	やし 椰子の実の打ち上ぐ春の旅寝かな たびね
◎ ○ ○	さいかう 催花雨や整ふ君の水化粧
○○ 兼題句	萌え立つは百花に優る草若葉

出句用紙(番号)

22

作者名

長島

入学児がちゃあ女ちゃあ音で帰宅せり

春雨や日々繰り返す自問自答

蓮華草ほんの小さな街の脇

満開の廃墟とたりしドライブイン

若草や少年はただ駆け廻る

R8 4/12  
南柯

南柯句会

作者名 ニ晁

○	○○	○○○ ○○○	○○○ ○○○	○
若草や弾みて返す雨の玉	何座の床軋 <small>まじ</small> みて窓 <small>とほ</small> サ啄木忌	春光のほかは纏 <small>まと</small> はず乙女像	春光やフランスパンの紙袋	春風 <small>はるかぜ</small> や乙女はうすき紅とひき

出句用紙(番号 24)

作者名 米田 よし

○○◎			○○◎	
春日 象牙の音の溢れたり	若草や人の型して眩しけり	ゆく春や火の消えたる餅屋かな	アポロ発万有引力春に満つ	彼方なる伊豆の峠に春の風

南柯句会

出句用紙(番号 25)

作者名 富野香衣

甘噛みのやうな余寒に囲まるる

急逝の句友へ桜吹雪かな

自分史の最終頁春の虹

遠巻きに見送る父や春の雪

たてがみ

若草の風へ髪虱駆け抜けり

南柯句会

出句用紙(番号 26)

作者名

山本 柳わこ

	⊕	○○	⊙○○○	○○
ダフニスとクロエを包むクローバー	囀を鳥籠の鳥聞きてきり	チュリップ混じり気のないお断り	春ともし店主の座面擦り減りて	若草の光さす部屋母入居

南柯句会

出句用紙(番号 27)

作者名 横田清史

㊦			○ ○ ○ ○ ○	
若草やういゃういゃとして多種多様	春眠や布団の中で長く伸び	ドア開けて新たな空気春の朝	万愚心節健診結果に目を逸らす	新社員子供の世代となりけり

南柯句会